

令和7年度 社会福祉法人瑞祥会 事業報告書

サービス活動収益が3,668,684,567円であり、前年比金額で68,857,067円、率にして約1.91%の増収となった。要因としては、すずかけの径の短期入所施設の利用率の大幅増加、物価高騰支援金等補助金収益増があげられる。費用については、賃上げによる人件費の増5.4%、経年劣化による修繕費の増39.8%、物価の高騰による給食材料費の増6.9%、燃料費及び光熱水費の高騰34.1%、職員紹介の手数料増31.7%、業務委託費増24.1%などに加え、雑費増27.8%は外国人採用による経費や管理費の増加となっている。これら費用全体としては、前年度比191,821,781円率にして6.11%の増額であった。よって、サービス活動増減差額については、337,244,287円であり、前年比金額で△122,964,714円、率にして約26.7%減益となった。

経常増減差額については、563,708,398円であり、前年比金額で△32,526,539円、率にして5.46%減益となった。

当期活動増減差額については、547,677,832円であり、前年比金額で△47,592,208円、率にして約8.0%減益となった。

総括すると、介護保険事業収益は微増したものの、コスト増がそれを上回り、本業の利益を圧迫した。しかし、有価証券等の運用益が好調であったため、全体としてのマイナスは少なく抑えられた。

今後の見通しとして、介護報酬の基本単価が全ての事業において大幅に引き上げられることは期待できず、引き続き厳しい経営環境が続くものと予想される。

しかしながら、当法人の財政基盤は安定していることから、今後はこの基盤を活かしつつ、更なる経営改善を図っていく。具体的には、生産性の向上による効率的な経営の推進、取得可能な加算の確実な算定、並びに人員配置の最適化に向けた見直し等を実施し、継続的な安定運営に努める。

利用料減免については、法人全体で、延べ16人、総額2,642,893円行った。

経営目標別の実施状況については以下のとおりである。

- ・ 利用促進については、未達の事業所と達成の事業所に分かれた。法人全体で在宅サービスは利用者が減少している事業所も多く、適正な人員配置の検討を行う必要がある。
- ・ 人事管理については、勤怠管理、労務管理を適切に行った。人事考課を実施し加算金を支給した。
- ・ 職員研修については、施設内研修については概ね計画どおり実施した。また資格取得については、介護福祉士11名、介護支援専門員5名が在籍職員から誕生した。
- ・ 財務管理については、物価高騰等による支出増もあったが、法人規模を生かし、経費の節減に努めている。
- ・ 昨年度に引き続き特定社会福祉法人として、公認会計士による監査を受けた。
- ・ 地域関係では、瑞祥会主催のサッカー大会、地域交流活動及び結ぶ会行事を行った。
- ・ 新規学卒者は、介護職員1名を採用した。令和7年4月よりベトナム人留学生（5期生）12名が介護福祉士として7施設（湊荘、引田荘、リリック、サン未来、すずかけ、花らんまん）に配属された。
- ・ 外国人採用については、ベトナム人技能実習生を15名、インドネシア人特定技能5名、ミャンマー人特定技能8名の合計36名を採用した。令和8年度は、ベトナム技能実習生16名の採用を予定している。法人全体で127名の外国人が所属している。
- ・ ノーリフティングケア導入の推進については、湊荘が先行して実施した結果、ケアの質が向上していることから、年に2回の法人内研修を実施し、導入をすすめていく。
- ・ 職員研修関係については、各施設の専門研修だけでなく、法人の組織力強化につながる管理者層への研修を行った。